



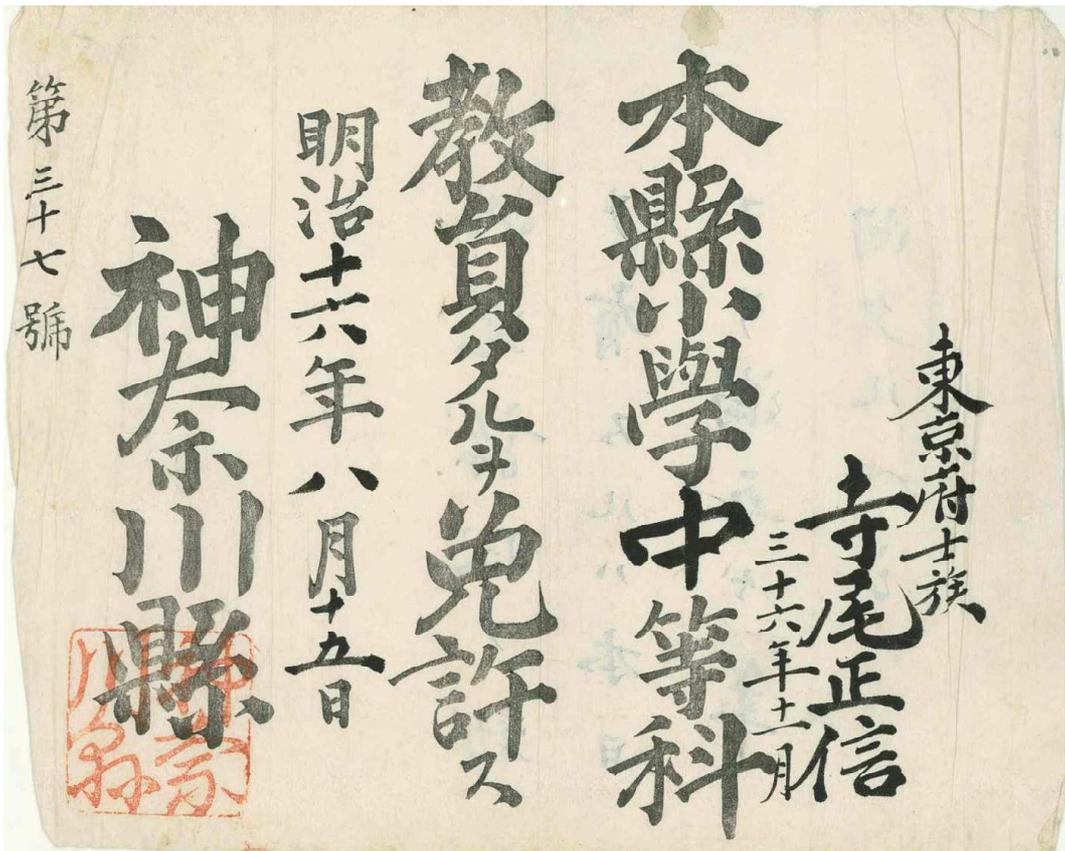
第 26 号

2013年3月29日発行

藤沢市文書館  
〒251-0054 藤沢市朝日町12-6  
TEL 0466-24-0171 FAX 0466-24-0172

藤沢市文書館  検索

<http://www.city.fujisawa.kanagawa.jp/>



明治16(1883)年の小学校教員の免許状(寺尾家文書)

上の写真は、寺尾正信(次ページ参照)に対して、明治16年8月15日に神奈川県が発行した免許状(大きさ:21.7×26.8cm)です。和紙に木版刷りの形式で基本的な書式が作られ、名前や年齢、作成年月日などを筆書きで埋めていく形態がとられています。また、この免許状の裏面には、免許状の有効期限が発行された日から満5年間であると印字されています。この免許状を入手した日から約1か月後、寺尾は大庭学校への勤務辞令を入手することになるのですが、この時寺尾はすでに36歳になっていました。(中村)

もくじ	
明治16年の小学校教員の免許状…………… 1	紹介：文書館の刊行物…………… 3
藤沢の教育者・寺尾正信…………… 2	古文書の読み方…………… 4

## 藤沢の教育者・寺尾正信 — 関係資料の調査報告とあわせて —

市内大庭地区の宗賢院(曹洞宗)境内に、大正2(1913)年8月20日に建てられた1基の石碑(総高266cm)があります。その石碑には、地域に生きた一人の教育者の生涯が、耕餘塾の出身者である<sup>まきのずいきち</sup>牧野隨吉(自由民権運動家)の書によって「寺尾正信之碑」として記されています。今回は、藤沢の教育者・寺尾正信の生涯を、地域資料の調査によって発見された資料と合わせて紹介します。なお、この碑文は『藤沢市文化財総合調査報告書』第4集の233・234ページに収録されています。

### 寺尾正信とは— 記念碑などからわかること —

寺尾は、姫路藩士の水野太郎兵衛の長男・佐太郎(幼名)として、弘化元(1844)年9月10日に同藩江戸藩邸で生まれました。明治初年に佐幕派に所属したため脱藩し、家と縁を絶ち寺尾姓を名乗った彼は、明治4(1871)年に姫路藩の藩校であった好古堂の一等講習生に合格、2年後にそこで学校<sup>かつじかかり</sup>活字掛勤務を命じられた後、東京府師範学校(現・東京学芸大学)に入り明治8年に卒業しました。翌9年、寺尾は相模羽鳥学校の訓導(今の教諭に相当)となり、その1年後に藤沢宿にあった<sup>せいびがくしや</sup>成美学舎の訓導として転任しました。

明治16年、寺尾は、前ページで紹介したように神奈川県から免許状を受けて正規の訓導になりました。そして辞令で赴任した大庭学校(現在の大庭小学校)や明治小学校などの訓導として、約30年余りにわたり在職しました。

寺尾は教育熱心な教師として、教案などをこまめに綴じ込んでいました。明治27年から37年までの約10年間に及ぶ教育関係の記録を収めた「教授心得」(新出)では、各科目について試験問題が記されていたり、同僚の教員が当時出されていた教育雑誌に投稿した、尋常第2学年のための「小学修身科教授案」が筆写されるなどしています。また、明治37年に藤沢小学校で行われた尋常3年男子の实地授業の参観

記も同じ資料に綴じられており、いかに寺尾が教育熱心だったかがうかがえます。

このように熱心に勤務する寺尾に対して、県は手当金や慰労金の交付で応えました。彼が訓導と兼務で大庭小学校の校長であった明治33年11月8日に、県は9円の手当金を交付しています。以後、毎年のように慰労金が贈られ、明治36年のように1年に2回も慰労金が贈られた年もあります。

明治43年5月5日には、当時明治小学校に勤務していた寺尾に対して表彰が行われました。これについては、藤沢で発行されていた『相模日の出新聞』(新出)の翌日付記事で「教員勤続功労表彰式」として紹介されています。しかし、寺尾はその後もまもなく病にかかり、同月の31日に亡くなりました。享年67歳でした。

### 寺尾家文書の概要

寺尾家文書は、寛政9(1797)年の名刀鑑から、昭和20(1945)年8月の朝日新聞にいたるまで、約70点近い資料です。資料群の中で特徴的なものとして、耕餘塾関連の資料があります。寺尾は、耕餘塾を開いた小笠原東陽と同じ姫路藩士で、東陽と寺尾は面識がありました。そのため、明治16年に東陽から漢詩の形式で書かれた年賀状(新出)や東陽と耕餘塾について記された文章なども残され、藤沢の教育史にとって貴重な資料群となっています。(中村)



大庭・宗賢院にある寺尾正信の碑

## 紹介：文書館の刊行物

文書館では、藤沢地域の歴史や資料の調査・研究の成果を刊行しています。以下、2012年度の当館の刊行物を紹介します。

### (1)『藤沢市史ブックレット3 藤沢地域の教育力を探る—教育の歴史を通して—』(800円)

近世の寺子屋や遊行寺の学寮といったところから、藤沢市域の教育が、現代に至るまでどのように発展してきたのかを詳述しています。

### (2)『藤沢市史研究』第45号(500円)

高野修氏の論文「小笠原東陽と三贅家—耕餘塾を振りかえる—」、下山治久氏の論文「戦国期、玉縄城領の神社造営と宮大工」が掲載されています。

### (3)『藤沢山日鑑 別巻 近侍者記録二』(3500円)

遊行寺の役寮で記された記録です。特に末寺についての動向が多く記されています。

巻末には、国立公文書館内閣文庫所蔵の「時宗藤沢遊行末寺帳」など、6種類の時宗本末帳についての解題、本末帳に記された時宗寺院の総覧、国別の時宗寺院数がわかる表などが付けられています。

### (4)『藤沢市史料集36 関東大震災と藤沢(上)』(800円)

藤沢市域は、火災にみまわれることは少なかったのですが、大きな揺れに襲われて多くの建物が潰れ、死者も出ました。そのような被害の一端を語る、以下の資料を収録しました。

- ①藤沢小学校の校長であった仙田四五郎が編集した『震災誌』
- ②鵜沼海岸に住んでいた阿部良夫(理学士、後の「北海タイムス」(現・北海道新聞)社長)が記した「関東大震災特ニ鵜沼海岸別荘地ニ於ケル状況」(『震災予防調査会報告 第百号(甲)』から引用)
- ③戦後、藤沢市ロータリークラブ会長を務めた小倉久武によって記された「関東大震災」(回想録『回

顧七十年』から引用)

- ④当時、長後地区で足袋職人の修行をしていた渡貫<sup>オオジシン</sup>幾治<sup>ワタクシ</sup>が記した「関東大震災 大地震と筆者」(回想録『古往の藤沢と日の出町の五十年』から引用)
- ⑤旧藤沢町域の寺社の震災被害を調査した、「藤沢町寺社被害調査表」(藤沢市行政文書『社寺に関する文書』のデータをもとに作成)

## 購入方法

ここに紹介した刊行物については、文書館1階の「市民資料室」、市役所の「市政情報コーナー」(食堂のある建物の3階)で販売しています。なお、ブックレットは「藤沢市書店協同組合」加盟9店でも販売しています。

市民センターや公民館では取次販売を行っています。各センターなどに備え付けの「有償刊行物取次注文書」にご記入の上、お申し込みください。

郵送をご希望の方は、代金と郵送料(切手)を、現金書留か定額小為替(事故の際の補償なし)で文書館までお送りください。



市史ブックレット3の表紙

## 連載 古文書の読み方 第25回

### —アヘン取扱禁止令—

此度 御沙汰の趣外務省より御觸達の次第先達各港府縣に於て其港在留清國民共へ鴉片烟持圖の間舗告布告あり有し此鴉片烟を買取我國民并賣渡し清國民共其罪犯に依り夫々御處置相成居候処右鴉片烟の儀其昔清國より入るる流毒害民今日の甚き事其終難捨置儀に猶此度政府はおつて新に防害の律例被立定諸開港場へ御布令相成在港清國商民へ被觸達以上は已後聊とも禁令を犯し者此度御法を以て其毒源を絶ち可し就く清國人民の内素より鴉片を嗜み片時も止めずき烟癖ある者も勿論法令より斗は服量も徒らにも用ひし様れ者に至る迄可為嚴禁條右等の者も決して來港渡世し其間舗に尤此節在來の内右等の者精々穿鑿吟味を遂に断然嗜癖を絶ち嚴禁を守りし者も格別其儀不能者も速に去り歸國可致候右 御沙汰の趣觸達し後尚潜伏罷在大禁を犯しし者有し及露顯し舊住新渡無差別其時控の通罪科可被處者也

明治三年庚午月

上の禁令(タテ34. 5×ヨコ49. 3cm)は、明治3(1870)年に出されたもので、和紙に木版で刷られたものと思われます。内容は、麻薬である「鴉片」(アヘン)を扱うことを禁止するものです。

明治政府は、明治元(1868)年閏4月20日に達(たっし)として「阿片(アヘン)煙ノ売買ヲ禁止シ其一己人ノ自用モ之ヲ許サス」(『太政類典第一編』所収)を布告しました。また、明治3年8月9日には「販売鴉片烟律並生鴉片取扱規則」(『太政類典第一編』所収)を定め、アヘンを売買した首謀者は斬首刑、人を誘って吸った場合も絞首刑と決めました。これに対して、明治9年9月に罰則規定を軽くするように求める意見書が出されましたが、元老院で却下されました。ようやくアヘンに関する罰則から死刑の文字が消えることになりました。

なお、この資料の読み下し文は次号で掲載いたします。(石井)

(参考：国立公文書館の歴史公文書探求サイト「ぶん蔵」の「麻薬は絶対にダメ!!」)

#### 編集後記

1・2両ページでは、大庭地区の宗賢院に石碑が残る、教育者・寺尾正信に関する資料を紹介しました。明治期の藤沢市域における教育実態を伝える、興味深い資料です。

「古文書の読み方」では、明治初期のアヘン関連資料を掲載しました。昨今、麻薬による依存症が大きな問題となっていますが、薬物依存への対策が歴史的なものであることがわかつて思います。(中村)